

## 武蔵野市生きる力を育む幼児教育振興検討会議について

## 1 経緯

○本市では、平成 24 年度に武蔵野市幼児教育振興研究委員会が設置され、同委員会の報告書（「子どもたちの望ましい発達を保障する幼児期の教育の充実を目指して」）において、幼児期の教育の意義、遊びを通した学びの重要性、施設・家庭・地域の役割等が示された。

○その後、市立境幼稚園の発展的解消と境こども園（認定こども園）の開設（平成 25 年度）、子ども・子育て支援新制度の開始（平成 27 年度）、幼児教育・保育の無償化の開始（令和元年度）など、本市の幼児教育を取り巻く環境が変化中、令和 2 年度からの武蔵野市第六期長期計画、第五次子どもプラン武蔵野において、生きる力を育む幼児教育の振興が今後の取組みとして位置付けられた。

○平成 30 年 3 月に「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が同時に改訂されたが、各要領、指針の中に「育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について共通の記載がなされている。

< 参考 >

## 各要領・指針の変遷

時期	幼保連携型認定こども園教育・保育要領	幼稚園教育要領	保育所保育指針
昭和23年3月		保育要領（文部省刊行）※	
25年9月			保育所運営要領（厚生省編集）
27年3月			保育指針（厚生省編集）
31年2月		幼稚園教育要領（文部省編集）	
(幼) 39年3月 (保) 40年8月		幼稚園教育要領（文部省告示）	保育所保育指針（厚生省編集）
(幼) 平成元年3月 (保) 2年3月		幼稚園教育要領（文部省告示） ・環境を通して行うものであることを「幼稚園教育の基本」として明示 ・6領域を5領域に再編成し整理 など	保育所保育指針（厚生省編集） ・養護的機能を明確化するため、全年齢を通じて入所児童の生命の保持、情緒の安定に関わる事項を記載。 ・6領域を5領域に再編成し整理 など
(幼) 10年12月 (保) 11年10月		幼稚園教育要領（文部省告示） ・教師が計画的に環境を構成すべきことや活動の場面に応じて様々な役割を果たすべきことを明確化 ・「生きる力の基礎を育てる」ことの記述 など	保育所保育指針（厚生省編集） ・地域子育て支援の役割を明記 ・「生きる力の基礎を育てる」ことを記述 など
20 年 3月	平成27年の子ども・子育て支援新制度のスタートに向けて策定	20年3月28日同日に告示・平成21年4月1日実施 幼稚園教育要領（文部科学省告示） ・幼小の円滑な接続を図るため、規範意識や思考力の芽生えなどに関する指導を充実 ・いわゆる預かり保育及び子育ての支援の基本的な考え方を記述 など	保育所保育指針（厚労省告示） ・保育所の役割（目的・理念、子どもの保育と保護者への支援など）、保育士の業務、保育所の社会的責任の明確化 など
26 年 4月	幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文科省・厚労省共同告示）	29年3月31日同日に告示・平成30年4月1日実施 <内容について一層の整合性を図っている>	
29年 3月	幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文科省・厚労省共同告示）	幼稚園教育要領（文部科学省告示）	保育所保育指針（厚労省告示）

※国として作成した最初の幼稚園・保育所・家庭における幼児教育の手引（手引書性格の試案）

内閣府作成資料より

○幼児教育の担い手である、幼稚園、保育所、認定こども園がそれぞれに教育・保育を実施している中、子

どもたちの生きる力を育むために、どのように市全体で幼児教育についての共通理解を持ち、実践につなげるか、また小学校教育とのより円滑な接続を行うかが課題となっている。

< 参考 >

【武蔵野市第六期長期計画（令和 2 年度～11 年度）】

基本施策 4 子ども「生きる力」を育む

子どもは、様々な環境と関わり、経験を積み重ねることで、身近な社会生活、生命及び自然に対する興味が養われ、「生きる力」を身に付ける。

子どもの多様性を尊重するとともに、子ども自身が遊びや体験を含めた様々な学びにより、自ら課題に気づき他者と協働しながら課題を解決していく力など、新しい時代に必要となる資質・能力や、個に応じた自信と生涯にわたって続く学ぶ意欲を育むよう、多様な施策を推進する。また、子ども一人ひとりの教育的ニーズに対応するため、指導及び相談支援の体制を充実させる。

(1) 生きる力を育む幼児教育の振興

幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な時期である。幼稚園、保育所、認定こども園など幼児教育の担い手は、研修等で互いに連携しつつ、保育者の資質・専門性を向上させ、幼児期の子ども各人の個性に応じた発達を支える取組を行う。また、幼児教育及び子育て支援事業の向上などのために、私立幼稚園に支援を行う。

【第五次子どもプラン武蔵野（令和 2 年度～6 年度）】

「生きる力」を育む幼児教育の振興

< 現状と課題 >

幼児教育の担い手である、幼稚園、保育所、認定こども園は、それぞれに質の高い教育・保育を実施しています。その上で、社会との関わりや体験活動等の「生きる力」を育むことがより一層求められています。

幼児期の子ども各人の個性に応じた発達を支え、幼児期の教育をより充実したものにするためには、幼稚園、保育所、認定こども園の相互理解と連携強化が必要と考えられます。また、学童期への円滑な接続のための仕組みを検討する必要があります。

< 施策の方向性 >

生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な時期である幼児期に「生きる力」を育むため、幼稚園、保育所、認定こども園など幼児教育の担い手が研修等で互いに連携しつつ、保育者の資質・専門性を向上させ、幼児期の子ども各人の個性に応じた発達を支える取組を行います。

## 2 会議の目的

本市の「生きる力」を育む幼児教育に対する考え方、幼稚園、保育園、認定こども園において共通理解を持つための連携の仕組み、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を行うための方法等、本市の幼児教育のあり方について具体的な検討を行う。

## 3 会議の開催方法・回数等

新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインにて会議を実施（全 5 回、各回 1 時間 30 分程度）

< スケジュール >

	時期（令和 2 ～ 3 年度）	内容
第 1 回	3 月 5 日（金）	会議の進め方の確認、意見交換等
第 2 回	4 月 22 日（木）	現状の分析、検討すべき事項の抽出
第 3 回	5 月 24 日（月）	検討すべき事項に関する議論
第 4 回	7 月 12 日（月）	中間報告書のとりまとめ
行政報告	8 月 18 日（水）	市議会文教委員会にて中間報告書を報告
パブリックコメント	8 月下旬～9 月中旬	中間報告書のパブリックコメントの実施
第 5 回	10 月 4 日（月）	パブリックコメントの確認、最終報告書とりまとめ
最終報告	10 月下旬	最終報告書の公表

#### 4 論点（想定）

- 武蔵野市における幼児教育の共通した考え方
- 幼児教育の考え方とその実践方法の共有の仕組み
- 幼稚園、保育園と小学校の接続の方法